

陸上競技における新たな組織の確立～クラブチームをモデルとして～

スポーツクラブマネジメントコース

5007A336-9 邑木隆二

研究指導教員： 間野義之准教授

■ 研究目的

現在、日本陸上競技界において大学生選手の卒業後における“選手として”の就職難が問題であると考える。実業団に進むことの出来る選手は男女合わせて10数名と非常に少ない。学生時代において日本代表経験や学生チャンピオンのトップレベルに到達しなければ実業団への道は閉ざされてしまう。そこで特に問題と考えられるのが、あと一步のところの実業団へと手の届くレベルにあった準トップレベル選手である。準トップレベル選手たちは通常業務を行うかアルバイトなどをして生計を立て、時間を見つけて練習をしている。最悪の場合は引退という道を選ばざるを得ない。陸上競技を生活の中心に据えた競技生活を送ることが出来ないのである。このような状況が続けば、日本陸上競技界のレベルの低下が恐れられる。また中・高校生から見た陸上競技界のイメージダウンにも繋がりがねない。普及面・強化面ともに共倒れの可能性がある。このような状況の改善が急務であると考え、クラブチームをモデルとして選手に対する新たな環境の提供を目的とする。

■ クラブ概要

- クラブ名
クラブチーム T.A.P (タップ)
- 事業主体
入間市教育委員会
入間市体育協会 入間市陸上競技協
- 所在地
事務所所在地
○ 埼玉県狭山市入間川 2-19-9-105
活動拠点所在地
○ 入間市運動公園
埼玉県入間市豊岡4-2-1
○ 駿河台大学
埼玉県飯能市阿須698



- ※ 赤線:ターゲット市場(入間市全域)
- ※ 青線:重点ターゲット市場(豊岡地区)
- ※ 黄線:運動公園・駿河台大学

■ ビジョン

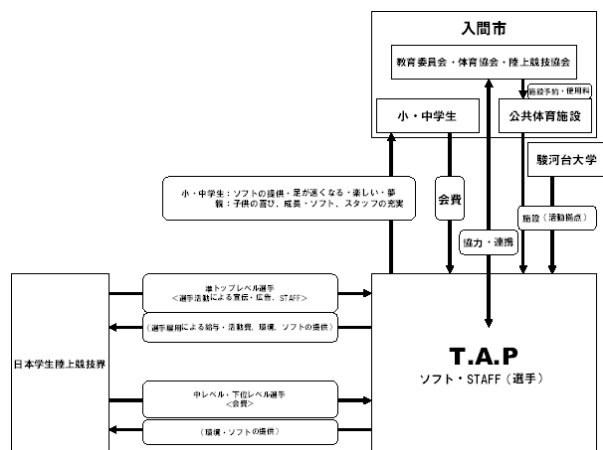
- 「陸上競技を続ける環境として選手の様々なニーズに応えることのできるクラブとなり、多くの選手の可能性を大きく広げることの出来るクラブとなる」
- 「クラブの活動、選手の活躍により多くの子供たちに夢を与え、陸上競技への関心を大いに高め、未来のスーパースターをクラブから発掘・輩出することの出来るクラブとなる」
- 「陸上競技を通して多世代にわたるコミュニケーションがとれるクラブへと発展し、地域社会に共通する話題を提供する」

■ 事業内容

- 小学生～中学生対象の短距離走を中心とした教室事業
- 大学生以上を対象としたトップアスリート育成プログラムを駿河台大学陸上競技部と共に行う
- イベント事業として小学生～中学生対象の陸上競技教室開催(不定期)
- 大学生以上を対象とした陸上競技強化合宿開催(春・夏・冬 年3回)

■ ビジネスモデル

初年度ビジネスモデル



- 活動初年度は埼玉県入間市を中心に活動
- 次年度以降に近隣地域へと活動を広げる

■ クラブの特徴

活動初年度は短距離を中心にプログラムを展開。スタッフは3名と少ないが、3名の競技成績は、日本代表経験者、学生チャンピオン、インターハイチャンピオンという成績を収めている選手であった。また、指導経験も豊富であるため、競技・指導経験を活かしたプログラム内容を組み、会員の満足度を高める。

陸上競技は非常にコストのかからないスポーツであり、“どこでもできる”ことからグラウンド使用料や、用具代といった費用が他のスポーツよりも低コストである。そこで低料金による事業展開を行い、会員の負担を軽減することが可能である。

選手の全面的サポートを第一の目的としたクラブはおそらく日本発である。今後の日本陸上競技界においてクラブチームが新たな役割を果たす時が来たといえる。我がクラブが先駆けとなり、日本中のクラブチームが同じ目的を持ち、日本陸上競技界をどんどん盛り上げていきたいと考える。